

鎌倉市立御成中学校

研究テーマ：「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～深く考え、判断し、自ら進んで学習する生徒の育成を目指して～」

1 実践の目的

御成中学校区の3校（御成中・御成小・稲村ヶ崎小）では、義務教育9年間を通して互いの良さを認め合い、深く考え、判断し、自ら進んで行動することのできる児童・生徒の育成に努めていくことを目指した。

そのためには、他者の意見をよくきき、自らの考えを再構成し、その考えを他者に伝えていくことを繰り返しながら学んでいくことが必要であると考え、「きく、考える、表現する」を大切にしたい授業づくりに取り組んできた。

2 実践の内容

(1) 市指定研究の取組とのつながり

県学びづくりの研究と同時に鎌倉市教育委員会教育課題指定研究にも取り組むにあたり、中学校区の取組を踏まえ『きく・考える・表現する』を意識した授業研究を行った。

その中で、早稲田大学教育・総合科学学術院小林宏己教授から「主体的・対話的な学びであるには、生徒が本当にききたい、考えたい、表現したいと思っていないと、真の主体的・対話的な学びにはならない。」と助言をいただいたことをきっかけに、『ききたい、考えたい、表現したい』と生徒が思えるような授業を『楽しい授業』と捉え、「生徒が、面白い、楽しい、と感じ主体的に学習しようとしてできているか」に着目して、授業研究を深めていった。

生徒や教職員が想定する「楽しい」を擦り

合わせるため、授業アンケートを繰り返し行い、『楽しい授業』の現状とニーズを把握することにも取り組んだ。

研究テーマにある【深い学び～知識が広がる授業～】への取組では、「知識が広がること」を意識しすぎたこともあり、今まで研究のベースとして行ってきた『楽しい授業』のときとは、生徒の学びの様子が異なってしまった。このことは、自分たちが目指してきた『楽しい授業』に立ち返り、その先にある『深い学び』について考えるきっかけとなった。

アンケートの「楽しい授業とは」の回答では「周りの人と話し合ったり協議したりする授業」が生徒・教職員ともに高い割合を占めていた。また、「授業中のどんな場面で主体的に学んでいると感じるか」についての生徒の回答では「他者との学び合いの場面」で感じるという回答が多く見られた。

このことを踏まえ、『楽しい授業づくり』が「主体的な学び」を実現すると考えた本校の取組は、単なる「知識・技能」だけにとどまらず、日常での経験や考え方なども含めた『学びが広がる授業づくり』を通して、「対話的な学び」や「深い学び」の実現をも意識する方向へと進むと考えるようになり、研究の後半は、特に『学びが広がる授業』を意識して、授業研究を行った。



(2) 校内研究における個人テーマの設定

指定研究テーマである【主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～深く考え、判断し、自ら進んで行動する生徒の育成を目指して～】をベースに、各教職員が1年間の個人テーマを設定し、生徒が面白い・楽しいと感じ、主体的に学習しようとする事ができているかを旨とした授業研究を行った。

各自の研究成果については、生徒アンケートなどをもとにまとめ、年度末の校内研究会で発表会を行った。各自の取組成果について共有することは、今後の授業方法の工夫改善において、新たな視点の発見にもつながり、とても有意義な時間となった。

個人テーマ	個人研究の取組	研究内容
主体的に学習しようとする生徒の育成	本日の授業で、学習する中で、教師の一方的な授業から、生徒の主体的な学習へと変化する授業の実践を行った。具体的には、授業の導入部分で、生徒の興味を引くような問いかけを行い、生徒の主体的な学習を促した。	生徒の主体的な学習を促すための授業実践を行った。具体的には、授業の導入部分で、生徒の興味を引くような問いかけを行い、生徒の主体的な学習を促した。
深い学びのある授業づくり	深い学びのある授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が深く考え、判断し、自ら進んで行動するよう促すための授業実践を行った。	深い学びのある授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が深く考え、判断し、自ら進んで行動するよう促すための授業実践を行った。
面白い・楽しいと感じる授業づくり	面白い・楽しいと感じる授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。	面白い・楽しいと感じる授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。
主体的に学習しようとする生徒の育成	主体的に学習しようとする生徒の育成を目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。	主体的に学習しようとする生徒の育成を目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。
深い学びのある授業づくり	深い学びのある授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が深く考え、判断し、自ら進んで行動するよう促すための授業実践を行った。	深い学びのある授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が深く考え、判断し、自ら進んで行動するよう促すための授業実践を行った。
面白い・楽しいと感じる授業づくり	面白い・楽しいと感じる授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。	面白い・楽しいと感じる授業づくりを目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。
主体的に学習しようとする生徒の育成	主体的に学習しようとする生徒の育成を目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。	主体的に学習しようとする生徒の育成を目指し、授業の中で、生徒が主体的に学習しようとするための授業実践を行った。



(3) 小中連携の強化（3校合同研修）

山梨大学大学院総合研究部教育学域の茅野政徳准教授を招いて、3校合同の研修会を実施した。『児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成』についてご講演いただき、児童・生徒が楽しみながら学び続けることの意義や、そのような学びにつながる学習課題の工夫が大切であることを再認識した。

また、主体的に学習に取り組む態度の評価や単元全体を通した指導と評価の一体化

の話をしていただき、自分の指導の癖を知ることが授業改善の視点になっていることなど新たな気づきがあった。

3 実践の成果

御成中学校区では「きく、考える、表現する」をキーワードに実践研究を進めてきた。本校ではそれをもとに、「ききたい、考えたい、表現したい」と思える、生徒が主体となる授業づくりを目指した研究を行ってきた。

「ききたい、考えたい、伝えたい」という気持ちを引き出すことで、自分の経験や知識がつながり、そのつながりの実感が次の新しい経験や知識へのつながりを生み出すエネルギーとなる。研究を進めていくうちに、そうやって「学びにつながる」状態を作り出すことが『深く考え、判断し、自ら進んで学習する生徒の育成』においてとても重要であることを、教職員間で共有することができた。今後も、今の学びが自分たちの未来へつながるように感じられる授業・学校生活となるよう日々研究を重ねていきたい。

また、教職員の意識の変化も研究実践の成果として挙げられる。特に、生徒の視点に立って授業を考え、生徒が主体となるような授業方法の工夫・改善を意識的に行うようになったことは顕著である。それによって、先生が変わろうとしていることを生徒も感じ、学校全体としてより質の高い学びを目指す意識が芽生えてきたと感じている。

4 今後の展開

よりよい未来を切り拓くためには、私たち教職員自身も「自ら進んで学び続けること」が大切であり、子どもたちと共に学びを楽しむことができる大人として、これからも日々の教育活動に力を尽くしていきたいと考えている。